

平成27年度豊明市スポーツ推進計画審議会

日 時 平成27年9月14日(月) 午後2時00分から

場 所 豊明市役所 教育委員会室

出席者 石川 恭委員、山田 勇二委員、仁枝 永次委員、相羽 雅敏委員、
八塚 敦子委員、鍵本 光昭委員、高木 安司委員、加藤 賢司委員

欠席者 緒方 誠子委員、寺倉 紀子委員

事務局 樋口生涯学習課長、塚本生涯学習課長補佐、高垣スポーツ担当係長
安藤スポーツ担当

1. 主管課挨拶（樋口生涯学習課長）

2. 資料確認（塚本課長補佐）

3. 委員委嘱及び会長選出

教育長が欠席のため、樋口生涯学習課長より代読で委嘱状を交付し、委員番号1番の石川委員が代表で受け取り。

会長選出については推薦から石川委員を全員賛成で選出。その後、山田委員が副会長に指名され決定した。

4. 議題

(1) 総合型地域スポーツクラブについて

添付の資料を基に説明をしながら、現在のスポーツクラブを総合型へ発展させていくにあたって、どのような運営形態を目指して行くかの提案を事務局より行った。

事務局からの提案としては、豊明市の地域単位でのスポーツへの現状での取組度合いと将来的な発展性の面から、現在のスポーツクラブの運営形態を維持しつつ、1つ1つの種目ごとに市民のニーズに合わせた複数の部門を設定することで参加者層の拡大を図っていくプラン（添付資料A案）を推奨し、審議委員会としてもその方針とすることで合意を得た。

～質疑応答～

相羽委員：A案を実施していくにあたって、事務局側のスタッフや種目の指導者として体育協会やレク協会の者に参加してもらいたいとのことだが、体育協会とレク協会を解体して新たにスポーツクラブの一部として組織し直す形になるのか。

⇒ 事務局：体育協会やレク協会も別組織として独立を保ちながら運営を行いつつ、今後スポーツクラブを発展させていく上で、運営面や各種目において知識や技能・経験などを持った人の力を借りて行くことや、種目の拡大などに際して共同で運営するという方向性も考慮していくという意味での提案という風にご理解いただきたく思います。

また、運営事務局についても、今回提案した方向性で運営していくにせよ、まず当初はスポーツ係が担って行かないことには現状を考えると立ち行かないということは理解しております。

ですので、まず今回で総合型クラブとして方針をしっかりと定め、それに沿った運営体制が成熟した段階で少しずつ行政側の手を離して自立型に移行していきたいと考えています。

相羽委員：A案の内容は添付資料にある高浜市のスポーツクラブをモデルにしたものということだが、高浜市のやり方をコピーするような形で今後進めていくのか。

⇒ 事務局：高浜市での事例のように指定管理業務まで請け負っていくという形は現状では検討していません。

しかし、少なくともスポーツクラブが母体となって1日完結のイベントを実施することや、世代別・習熟レベル別の教室を運営することについては実現させていきたいと考えています。

鍵本委員・高木委員：今回の提案内容について、実際にスポーツクラブとして活動している各クラブの意向はどうか。

⇒ 事務局：現在のスポーツクラブの事務局についてはスポーツ係が担当していますので、今回の提案はスポーツクラブとしての提案と読み替えていただいて差し支えありません。

また、運営方針の是非については、総合型スポーツクラブの実施はスポーツ推進計画の目標達成のためのプロセスの1つということが前提としてありますので、スポーツクラブでの役員理事会より先にこちらでお伺いさせていただいております。

ただし頭ごなしに現在のスポーツクラブに総合型への移行を押し付けるわけではなく、すでに既存の各種目の指導者と現在の活動内容を維持しながら、可能な範囲で対象者を一般向けに拡大していく方法を検討し始めておりますので、それを通して各クラブにおいて今後の方向性について理解はさせていただいていると考えています。

八塚委員：スポーツ推進委員としてスポーツクラブの中のトータルスポーツの種目で実際に指導に携わっていますが、その立場として、今後の発展性を考えるとA案の方が良いのではないかと思います。

石川会長：A案とB案とある中でそれぞれの特徴として、まずA案は市民の中で各種目に対する意識が高ければ世代を越えた交流も生まれやすく、その結果として種目の活動が盛んになることから、様々な面で好循環が発生し、理想的な形を築ける形であると思います。

しかし逆に種目ごとの意識が低い状態でこの形を採ってしまうと、時間が経つごとに活動が衰退して行ってしまう、自然消滅的に無くなってしまいうというリスクもあり、その辺りが難しいところです。

かと言ってB案についてどうかと申しますと、この形の場合は各地

域から自発的に活動したいという希望が上がっているのであれば良いのですが、行政側から各地域にお願いするという姿勢で実施してしまうと、活動に参加される方の意識もあまり高くなり、結果としてスポーツクラブに望むような役割や効果を得ることが難しくなってしまうがちです。

国の方針として各地方自治体に総合型スポーツクラブを立ち上げなさいという指示がされているため、各自治体でその実施方法に苦慮した結果としてB案のような形が採用されている所も多いのですが、上手くいっているところは少ないような印象を持っています。

ですので、現在の豊明市のように、下地としてそれを発展させることで総合型の形に持っていけるような組織があるのであれば、A案のような形で実施することが一番進めやすい形なのではと思います。

(2) 今後の審議会の実施計画について

高垣スポーツ担当係長より、平成28年度については通常どおりに今回と同じ9月頃に1回の開催とするが、平成29年度は計画の中間検証の年度にあたるため、審議会の開催回数を3回ほど予定している旨を伝達し、出席委員全員からの了承を得た。

(3) その他

山田副会長:今後の方針がA案に決まったことで、ようやく豊明市スポーツクラブの総合型への道筋が定まってきたように感じます。

ここまで時間を掛けてしまった分、今後はしっかりと腰を据えて、関係各位としっかり打合せを行って様々な意見を取り入れつつ、豊明市のスポーツ発展のためにベストな形のスポーツクラブとしていけるように取り組んでもらいたいと思います。